【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成30年7月12日(2018.7.12)

【公開番号】特開2016-220908(P2016-220908A)
【公開日】平成28年12月28日(2016.12.28)
【年通号数】公開・登録公報2016-070
【出願番号】特願2015-109771(P2015-109771)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｂ　23/12　　(2006.01)
Ａ６３Ｂ　21/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｂ　23/12
Ａ６３Ｂ　21/00

【手続補正書】
【提出日】平成30年5月28日(2018.5.28)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
使用者が負荷に抗して２つの操作部を移動操作することにより、身体の筋肉または関節を動かすトレーニング装置において、
前記２つの操作部を、前記負荷に抗する方向と前記負荷が作用する方向とに往復移動可能に支持する支持部材と、
前記支持部材に回転自在に支持され、仮想回転平面に垂直な２つの第１軸の廻りで前記支持部材に対して前記２つの操作部をそれぞれ回転させる２つの回転部材と、
を有し、
前記２つの操作部の各々は、前記仮想回転平面上にて回転半径の方向と平行な軸を第２軸としたとき、前記第１軸からの前記回転半径が、同一直線上で互いに逆向きとなる２つの回転軸半径を含む前記第２軸上の領域に亘って形成されることを特徴とするトレーニング装置。
【請求項２】
請求項１に記載のトレーニング装置において、
前記２つの回転部材の各々は、
前記第１軸を中心として回転可能に支持される一端と、前記一端より前記第１軸の延長線上を避けて上方に延びる他端とを有する取付具と、
前記取付具の前記他端に支持される支持端より自由端に向けて前記第２軸に沿って延びる軸心部と、
を含むことを特徴とするトレーニング装置。
【請求項３】
請求項１または２に記載のトレーニング装置において、
前記２つの操作部の各々は、前記仮想回転平面と平行な断面の重心が前記第１軸から偏心した位置にあり、前記第１軸からの前記回転半径の長さが異なる前記第２軸上の複数の位置では、前記第２軸と直交する断面の輪郭長さが異なることを特徴とするトレーニング装置。
【請求項４】

請求項３に記載のトレーニング装置において、
前記第１軸からの回転半径が短い位置での前記第２軸と直交する断面の輪郭長さが、前記第１軸からの回転半径が長い位置での前記第２軸と直交する断面の輪郭長さよりも短いことを特徴とするトレーニング装置。
【請求項５】
請求項１乃至４のいずれか一項に記載のトレーニング装置において、
前記２つの操作部の各々は、前記第２軸と直交する断面の重心が、前記第２軸と偏心した位置にあることを特徴とするトレーニング装置。
【請求項６】
請求項２に記載のトレーニング装置において、
前記２つの操作部の各々は、前記軸心部の廻りに回転可能に支持されることを特徴とするトレーニング装置。